

聖峰 seihou



「P01『学びを変える』 授業は45分で行っています

一般的に中学校の授業時間は学校教育法施行規則で定められており、授業は50分を一単位時間とし、年間の標準授業時数を1015時間と定めています。今年度より本校では教育課程(授業時間)を変更し、45分授業で行っています。その意図や授業時数の確保について以下に述べさせていただきます。



学校全体で『学びを変える』！

加賀市学校教育ビジョンには4つのPROJECTが唱えられており、その中のP01『学びを変える』では、既存の授業スタイルから個々のスピードに合わせて、自分のペースで学ぶこと、たくさんの人との交流や対話を通して、助け合って共に学ぶことを進めてきました。これからの錦城中学校は、それをクラスから学年、学年から全校へ枠を広げ、もっと自由に創造的な学びとその空間を創り、一人ひとりの興味・関心、好奇心を思いのまま広げ、「伸ばす」教育へと変えていきたいと考えています。



生徒に寄り添った授業を！



P02『誰一人取り残さない』特に、新規不登校を作らない取り組みとして、45分授業を捉えています。小学校と中学校の授業時間を一緒にすることにより、穏やかに中学校に順応できるよういわゆる「中1ギャップ」の未然防止策としてとらえています。また、授業に集中して取り組むことができるよう、授業そのものを見つめ直し、45分のタイムマネジメントを通して、あらためて指導内容の精選と授業改善に努めていきます。

45分授業のデメリットをメリットへ Change!

45分授業にすることで、教師は授業内容を精選・組み直し授業改善に努めていきます。また、削減された5分をどのように回復し取り扱っていくかが一番の問題です。時期によっては7限授業を計画し、授業時間の回復に努めたりすることを考えています。ただし、教科の時間として確保することはもちろんですが、総合的な学習の時間や、全校生徒が学び合う時間として活用すること。地域での活動に充てるなど、様々な場合に柔軟に活用できるように計画しております。一人ひとりが課題をもって、実社会に触れ、探究的な活動を通して、課題解決に向かう生徒の育成を目指したいと考えています。

